

この冊子の著者がなぜ「面瀬のよさを探る仲間たち」というか。それは、この面瀬のよさはたった一人では探りきれず、面瀬はよいところ、価値のあるところ、住んでいることに誇りをもてるところ、ということも多くの人たちが心に思い、語り教えて下さって編集なったので、結果的にはその著者名になった。

それにしても、不思議は現面瀬地区自治会連絡協議会長の佐藤正義氏の所蔵の一枚の写真（本冊子第四話）から始まった。この写真は戦前「二本松小学校」を背景にした集合写真である。面瀬小は開校三十周年とばかり考えていたところに、偶然もたらされた明治六年開校の学舎の写真。単に松岩小の一部と階上小の一部が新興住宅地として独立したものとばかり考えていたのに大きな驚きとともに、この地区には何かあるとの実感が沸々とわいた。面瀬小学校開校三十周年のバックにある歴史、文化を探してみたい。その解明

こそが開校三十周年の真骨頂であると思ひ至り、仲間たちと探求の旅に出た。しかし、旅は道半ばであり四十周年の佳節に期待するものである。

ちなみに「面瀬さがし」の表題は江戸期文化年間の「松崎左我志」からいただいた。

平成二十五年十一月十五日 震災復興三年目

面瀬小学校開校三十周年を記念して

面瀬のよさを探る仲間達」著

面瀬さがし

目次

- 一 面瀬地名由来 「傾城」由来か「面瀬」由来か……………1
- 二 面瀬川名・一考 江戸期までは「傾城川」と呼称……………6
- 三 面瀬小学校は創立以来百四十年とは 面瀬小学校前身の三つの小学校……………15
四
- 面瀬地区の産金を探る 面瀬地区内の産金の古跡と昭和初期までの状況……………23
- 五 槐(サイカチ)の木・面瀬地区秘されし葛西の心……………29
サイカチの木と千岩田の熊谷家……………
- 六 忘れまじ大震災 歴史は繰り返している……羨に懲りて膾を吹こう……………34
「明治三陸大津波」「昭和大海嘯」「東日本大震災」から学ぶ……………
- 七 面瀬の淵源を探る 齋藤敏氏所蔵「大前・熊谷家」文書について……………53
三文書から知る江戸期の百姓制度……………
- 八 面瀬の遺跡く高谷遺跡を中心として……………64
高谷遺跡から発見された土坑、中世の面瀬……………